

平成 29 年度 施策評価表

□

施策	0305	図書館の充実と整備	施策推進担当部	教育委員会
施策の方針	図書館の機能を充実させるとともに、市民の読書活動を推進する。また、県立・大村市立一体型図書館（仮称）の整備を進める。			

【DO（実施）】

基本計画における目標値

指標名	単位	基準値 (H26)	H28目標値	H29目標値	H30目標値	H31目標値	H32目標値	H28年度	
			H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値	達成率	進捗率
① 市民一人当たりの年間貸出冊数	冊	5.02	5.06 4.70	3.15	2.10	6.00	7.00	92.9%	67.1%
②									
③									
④									
⑤									

施策達成状況の説明

ここ数年の貸出総冊数の減少傾向が継続している。一方で、市の人口は微増傾向が継続しているため、一人あたりの貸出冊数が、H26基準値から0.32ポイントも減少している。主な要因としては、公民館図書室及び住民センター図書室の貸出総冊数の減少があり、特に児童書分野の貸出冊数の減少が著しい。
一方、県立・大村市立一体型図書館（仮称）の整備については、平成28年度に設計が完了し、平成29年4月に着工した。平成31年1月の竣工をめざし、建設工事を着実に実施していく。

施策経費

(単位:千円)		H28年度 決算	H29年度 予算	H30年度 見込	特記事項
内訳	事業費	302,484	635,955	1,585,723	
	国庫支出金	71,914	267,407	371,441	
	県支出金	0	0	0	
	地方債	119,000	244,500	860,300	
	その他	138	43,556	146,445	
	一般財源	111,432	80,492	207,537	
	人件費	81,234	90,332	-	
フルコスト	383,718	726,287	-		

施策の概要

030501	図書館の充実	市民の読書活動や課題解決をサポートするため、図書資料を幅広く収集、整理、保存するとともに、レファレンス・サービスの強化に努めます。
030502	読書活動の推進	市民の読書活動を推進するため、講演会等の様々なイベントを開催します。また、幼稚園、保育所（園）、認定こども園等で「出張おはなし会」を行うなど、子どもの読書活動を推進します。
030503	県立・大村市立一体型図書館（仮称）の整備	市民の知識や知恵を育み、学びや暮らしを支える知的活動の拠点として、県立図書館と市立図書館の合築による一体型図書館の整備を進めます。整備にあたっては、同一の書架や共同の窓口カウンターを設置し、利用者の利便性向上を図るとともに、県内外から人々が訪れる新たな交流拠点として、出逢いにあふれた楽しい図書館づくりを推進します。

【CHECK (評価)】

<p>施策を達成する上での問題点・課題</p>	<p>① 公民館・住民センター図書室における児童図書貸出冊数の減少 図書館の児童書貸出冊数は、本市児童数が減少していないにもかかわらず、平成24年度以降、減少傾向が継続している。一方で、ここ数年、小・中学校図書館では、学校司書の配置、図書の充実（蔵書数の増加）、学校独自の読書活動の推進など様々な取り組みが実施され、その結果、学校図書館の貸出冊数は、大きく増加している。 今後、児童・生徒に対する読書活動の推進等について、学校教育部門との連携等十分に検討が必要である。</p> <p>② 市立図書館休館の影響（H29.10.1から新図書館開館まで） 休館中は大村市立図書館・史料館仮事務所に移転し、12月5日から図書等の貸出サービスを一部だけ提供する。これに伴い、貸出対象図書の減少（約14万7千冊から約1万2千冊へ）、貸出・閲覧スペースや駐車台数の減少などが発生し、図書館利用者や貸出冊数が減少することが見込まれる。</p> <p>③ 県立・大村市立一体型図書館の運用・施設管理手法等の協議・決定 一体型図書館の運用や施設管理等のソフト面については、県・市で平成28年度から協議を進めている。特に、それらを担う人員や経費の負担割合は重要な課題であるため、十分に検討を行う必要がある。</p>
-------------------------	--

【ACTION (改善・改革)】

<p>問題点・課題を踏まえた施策構成事務事業の改善・改革や新規事業についての考え方</p>	<p>① 公民館・住民センター図書室における児童図書貸出冊数の減少 第1次大村市子ども読書活動推進計画（H25～H29）における取組と成果を十分に検証し、あらたに第2次大村市子ども読書活動推進計画（仮称、H30～H34）を策定する。その策定過程において、子どもの読書活動の変化の状況を十分に把握し、特に、学校図書館の整備充実と貸出冊数の増加傾向を踏まえ、あらたな施策を構築する。 また、新図書館開館までに整備すべき蔵書（約15万冊）について、古い本の除籍（廃棄）、新しい本の選書と購入を進め、利用者のニーズや学習意欲に対応する。</p> <p>② 市立図書館休館の影響（H29.10.1から新図書館開館まで） 大村市立図書館・史料館仮事務所を12月に開設し、新聞や雑誌の閲覧サービス、貸出対象図書は減少するものの貸出サービスを継続する。 児童書については、団体貸出（幼稚園、保育園、認定こども園、学校、放課後児童クラブなど）と個人貸出のバランスを図りながら対象図書の選定を行う。</p> <p>③ 県立・大村市立一体型図書館の運用・施設管理手法等の協議・決定 一体型図書館の運営を担う組織や施設管理手法及び施設管理経費の負担割合などについて、十分に検討を行い決定する。 特に、人員や経費の負担割合は、長期間にわたり影響が生じる重要な課題であるので、慎重に検討を行う。</p>
---	---

平成30年度新規事業

事業名（仮称）	担当課	H30年度見込	対象・事業概要など
		事業費	
1			
2			
3			
4			
5			
		0	

【評価調整委員会意見】

1	施策推進担当部意見のとおりに	
<<特記事項>>		

【最終評価（都市経営戦略会議）】

1	評価調整委員会意見のとおりに	
<<特記事項>>		